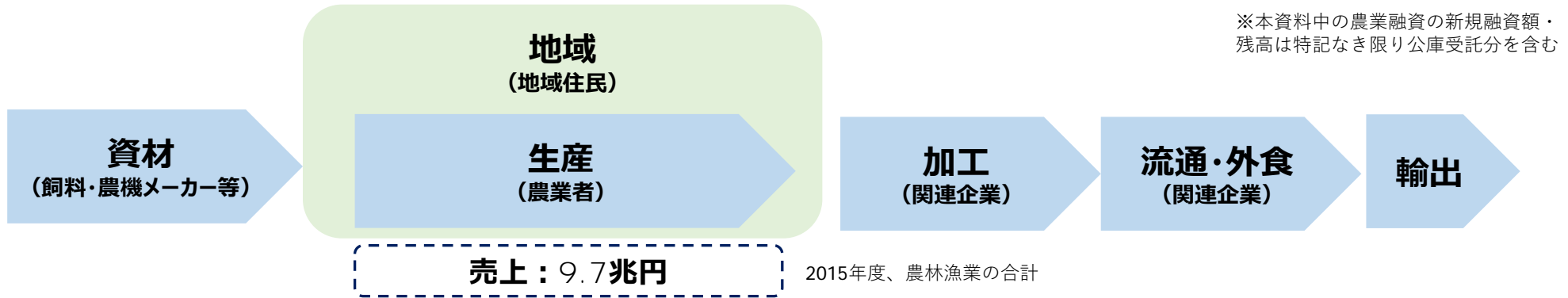


# 農業金融の取組状況等について

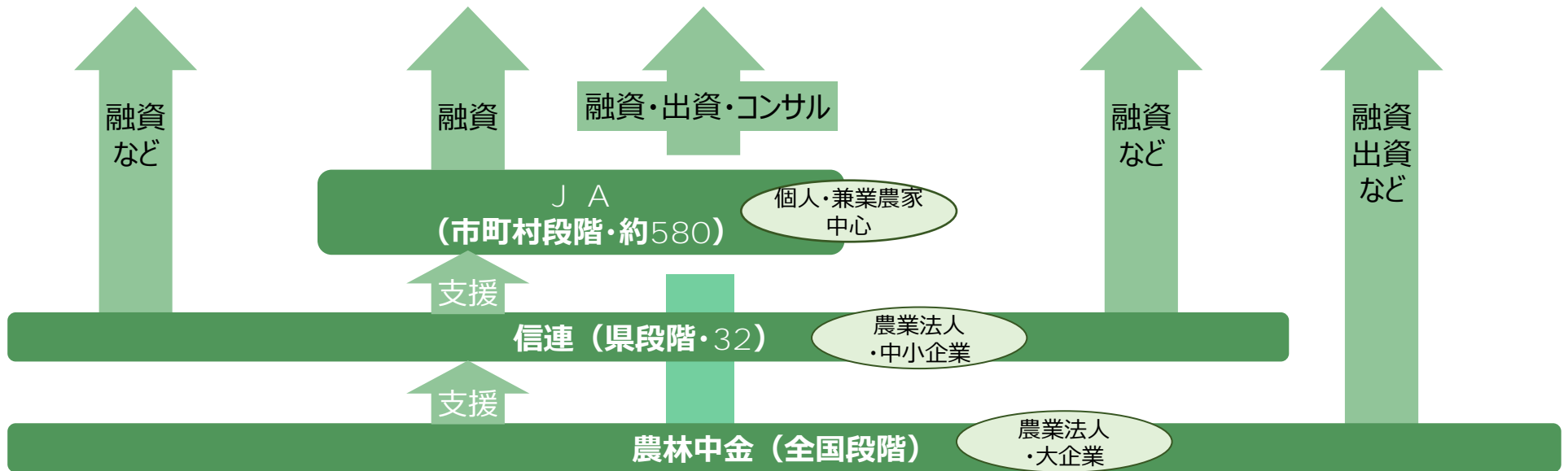
2 0 2 1 年 3 月 5 日  
農 林 中 央 金 庫

# 1 取り組みの全体像

J A・信連・農林中金で農業者の規模等に応じて役割分担しながら金融仲介機能を発揮



農業融資: 5.0兆円 (うちJ Aバンク2.6兆円) 2019年度



※ 農業法人への出資は、農林中金の関連法人であるアグリビジネス投資育成 (株) を通じて実施

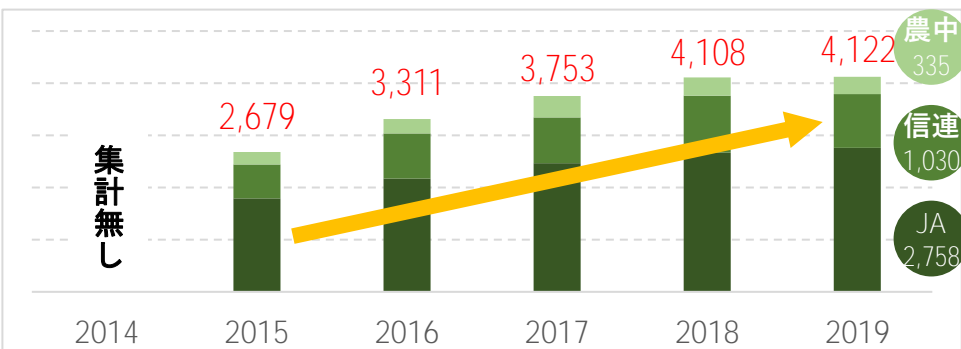
## 2 農業金融の取り組み

- JAバンクでは、2016年以降目標進捗管理を開始し、農業融資の伸長に取り組んできた。この間、担い手の大規模化やTPP対策にかかる政策への対応などもあり、**農業融資残高は着実に増加**してきている(2019年度末:2.6兆円)。
- また、**自然災害や新型コロナウイルス等(⇒P6)による農業者の被害に対しても、出融資メニューを取り揃え、政府・関係機関とも連携し、それぞれの地域において円滑な金融機能の提供に努めている。**

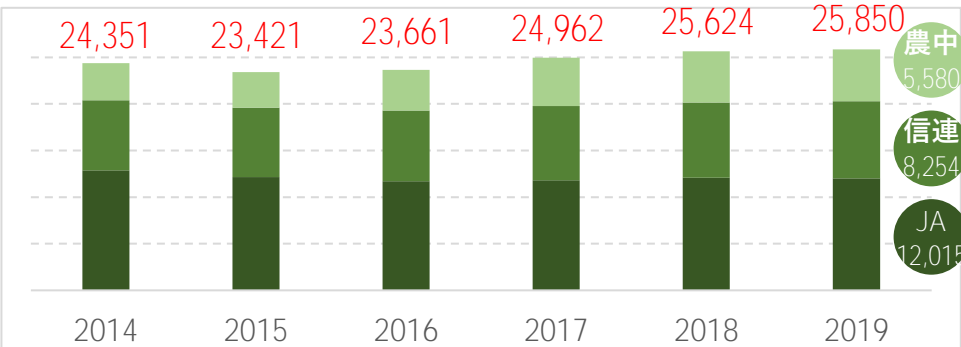
### 資金ニーズへ適切に対応し農業者の所得増大、経営の安定に貢献

#### JAバンク農業融資の実績

農業融資 新規融資額[長期資金](億円)



農業融資 残高(億円)



#### ▼事例紹介

#### 農業法人(野菜)と食品企業が連携した玉ねぎの生産・加工販売プロジェクトをアレンジのうえ、金融面をサポート

- ・農林中金は、新たに**大規模な玉ねぎの生産・加工販売**に取り組む意向のあった農業法人と、玉ねぎの安定調達等を志向する食品企業をマッチングするとともに、**事業計画の策定を支援**。
- ・**運転資金(100百万円)、加工施設の新設資金(980百万円)**を融資するなど、金融面も十分にサポート。
- ・新たな加工施設では、地域の玉ねぎ農家からも仕入れるなど、**当該農業法人のみならず、地域の農業者の所得増大にも寄与**。

#### ▼事例紹介

#### コロナ禍で事業環境が見通せない中、今後の経営安定化に向けた借入金のバランスを調整する金融対応を実施

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業環境の不透明性が高まる中、農業法人(養豚)に対して事業性評価を実施し、**短期資金偏重の調達構造が課題**と認識。
- ・当社の**長短借入金のバランスを調整して経営安定化を図る**ため、**低利でのコロナ復興資金(長期 300百万円)を融資**。

### 3 地域における金融仲介機能の発揮

- J Aバンクでは、農業を取り巻く地域社会における資金需要にも積極的に対応。
- 季節や天候の影響に合わせて柔軟に対応する農業融資のみならず、**地域における多様な資金需要に対応し、安定収益を生むこと**によって、**農業融資にも共通の事業基盤（貸出審査体制、店舗チャネル、システム等）を維持・確保。**

#### 農業は地域社会と不可分一体 地域社会においても金融仲介機能を発揮

		H26年度 (2015/3末)	H27年度 (2016/3末)	H28年度 (2017/3末)	H29年度 (2018/3末)	H30年度 (2019/3末)	H31年度 (2020/3末)	
							残高	%
農業資金		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	5.5
個人ローン	住宅ローン	8.5	8.7	8.9	9.2	9.7	10.2	46.8
	住宅ローン以外	1.0	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	4.1
事業資金（農業資金を除く）						6.7	6.9	31.7
公金（地方公共団体・公社・公団等）		10.2	10.0	10.5	10.3	2.1	1.9	8.7
金融機関						0.8	0.7	3.2
合計		21.0	20.7	21.6	21.7	21.4	21.9	-

#### 【組合員資格別の貸出事業量】

単位：兆円 上記は公庫受託分を含まない金額

- ・ 正組合員：34%、准組合員：49%、組合員以外の者：17%（農水省の2019年度調査）

#### 【農業資金】

- ・ 農業融資の市場規模（日本公庫による貸出を含む推計）は約5.0兆円。そのうちJ Aの残高は24%を占める（信連・農林中金を含むJ Aバンク全体では52%）。

#### 【住宅ローン】

- ・ 住宅ローンの市場規模（住宅金融支援機構貸出を含む）は約200兆円。そのうちJ Aの残高は5%程度。

# 4 農業法人向けコンサルティング

- 農業法人向けコンサルティングは、農業者の経営の安定・成長を目的に、2018年度から信連・農林中金を中心に取組みを開始。農業者の所得増大にとって最も重要な取組みの一つとして、2020年度までに**累計148先へ実施**。
- 金融機関としての強みと農業に対する知見を兼ね備えた「**経営課題の見える化**」と「**ソリューションの提案**」により、農業経営者からも本件取組みを評価する声を多く受けている。

## 事業性評価による経営課題の見える化とソリューション提案により農業者の所得増大に貢献

### 農業法人向けコンサルティングの実施件数

	2018年度	2019年度	2020年度	累計
農林中金	23先	26先	34先	83先
信連	一先	33先	32先	65先
合計	23先	59先	66先	148先

#### ▼ 事例紹介

### 個人農家(柑橘等の果樹生産者)の事業規模拡大を支援

- 将来的に事業規模拡大のニーズがあるものの、現状の直販、手詰めによる選別では新たな雇用が発生してしまいコスト増となることが課題となっていた。
- 労務費と委託費のシミュレーションを実施し、「自家選別・箱詰め」から一部「JA委託」を提案。コスト増を抑制した事業規模拡大が可能となった。



#### ▼ 事例紹介

### 農業法人(レタス・枝豆等を生産する大規模法人)の収益性改善を支援

- 作物のピークに合わせた設備となっていたため、繁閑により設備の稼働率にバラツキがあり、固定費負担が低収益の要因となっていた。
- 稼働率のバラツキ抑制のため、外部の他製品の作業受託を提案(製茶とベビーリーフの受託を検討中)。



(枝豆定量袋詰め機)

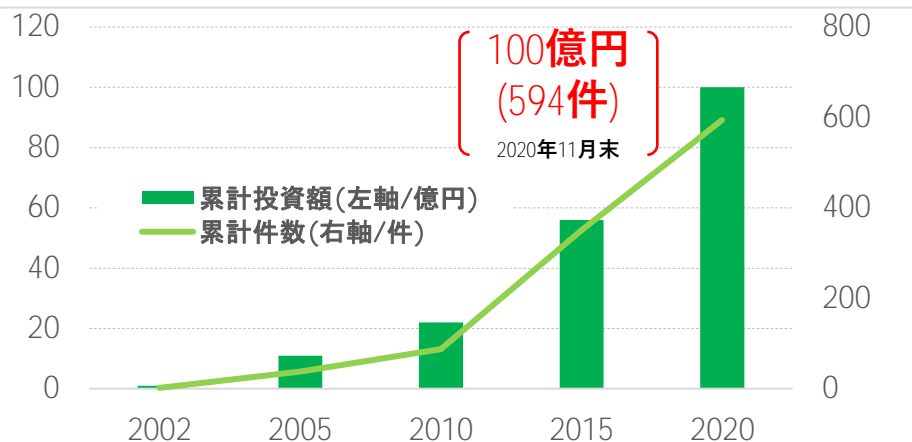
# 5 リスクマネー供給

- 農業法人に対する出資機能提供のため、**アグリビジネス投資育成(株)を通じたリスクマネーを広く供給**。様々な成長ステージの農業法人へ出資を行い、累計で**594件・100億円(2020/11末)**と**国内で最大規模の投資実績**を確保。
- 農林中金は、国産農畜産物の安定供給に向けて、全農と一体となって、食農関連企業との資本・業務提携を実施。

## リスクマネー供給を通じた農業者の所得増大に貢献

### 投資額・投資件数の実績

#### アグリビジネス投資育成(株)



#### 農林中金

**国産農産物の消費拡大**による農業者の所得増大や、JAグループが持つ**地域拠点・金融等のサービスの更なる充実**による地域活性化を目的として、(株)ファミリーマートに出資。伊藤忠商事・ファミリーマートとの業務提携によるシナジー効果創出を目指す。

出資額 全農と合わせて**570億円**

#### ▼事例紹介

### アグリ社の出資を受け、加工品の製造・販売事業を開始

- 和歌山県で「有田みかん」の生産・選果・加工・販売を一貫して手掛ける早和果樹園は、**アグリ社から複数回の出資を受け、ジュース・ゼリー・ジャム等の加工品の製造・販売事業を開始**。着実に生産・販売が伸長してきている。



#### ▼事例紹介

### 設備投資により香港向け国産米輸出が235%増加

- 香港で**おにぎり専門店を90店舗運営する百農社**では、米原料を全て日本から輸入する国産米のみ使用している。
- 農林中金からの出資により設備投資**を行い、店舗出店を拡大させた。結果として、**国産米の仕入量も大幅に増加**することとなった。





# 6 新型コロナウイルス関連

農業者の営農継続に必要な資金を供給するとともに、需要の変化に合わせた新たな販路開拓を支援

2021年1月末時点  
 農業者向け  
 資金対応実績  
 (公庫受託を含む)

J A・信連  
 5,038件 342億円

農林中金  
 554件 156億円

- ・ コロナ禍で影響を受けた農業者の資金繰りを、低利融資や保証料負担で支援
- ・ 経営再建のための長期資金や、財務安定化のためのアグリ社による出資も用意

## 事例紹介

外食向けレタスの出荷が停止した農業法人の販路開拓をJ Aグループ一丸となって支援

- ・ 東海地区の農業法人では、コロナ禍により業務用レタスの出荷が停止。
- ・ 信連は、地元J Aや経済連と一体となって、地元での出荷を支援。農林中金は取引先の青果業者等を通じて、首都圏の大手スーパーや大手量販店への出荷を支援し、余剰在庫の大部分を系統内外で成約。

## J Aバンクは十分な経営健全性を確保

J A

2019年度  
 自己資本比率 15.7% 前年度比 0.3%減

リスク管理債権比率 1.4% 0.2%減

信連

2020年3月期  
 自己資本比率 15.3% 前年度比 0.3%減

リスク管理債権比率 0.8% 変わらず

農林中金 (連結)

2020年12月期  
 総自己資本比率 23.7% 前年同期比 2.3%増

有価証券含み益 3.5兆円 0.9兆円増

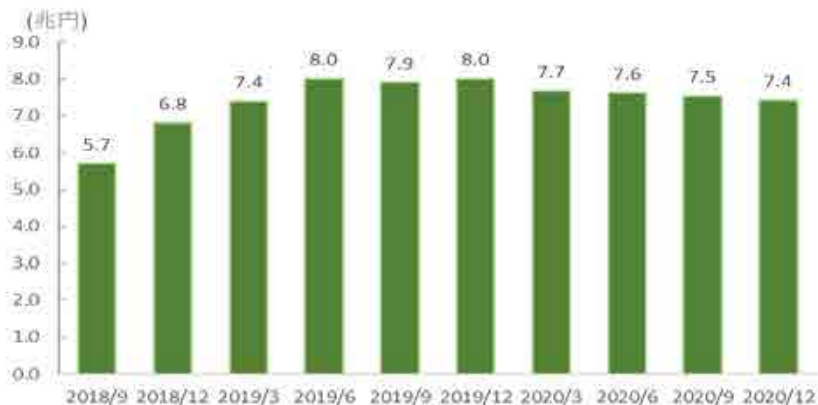
2020年9月期  
 リスク管理債権比率 0.2% 変わらず

- ・ 自己資本比率：リスク・アセットに対する自己資本の割合。国内基準行は4%、国際基準行は8%以上の確保が必要。
- ・ リスク管理債権比率：貸出金に対する破綻先債権、延滞先債権、3か月以上延滞先債権および貸出条件緩和債権の割合。

# 【参考】市場運用資産(CLO)について

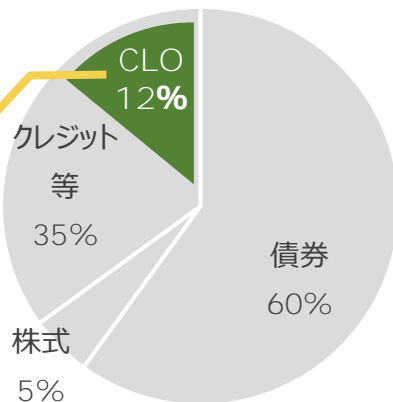
- 詳細な分析や適切なリスク管理態勢の下、リスク・リターンを勘案しながら慎重な投資を実施

## 投資残高の推移



## 市場運用資産に占める割合・資産内容

- 市場運用資産の12%
- 全てAAA格
- 全て満期保有目的



## 投資にあたっての分析・リスク管理

<b>投資対象</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• AAA格に限定</li> </ul>
<b>裏付資産</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 組入可能資産についての厳格な基準設定</li> <li>• 裏付資産内の個別銘柄・業種の分析</li> </ul>
<b>ストラクチャー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 信用補完水準等についての独自ガイドライン</li> <li>• 当金庫独自の厳格なストレステスト</li> <li>• ミドル部門による全件審査</li> </ul>
<b>運用マネージャーの選定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 投資前のデューデリジェンスを通じた、運用能力・投資スタンスの確認</li> </ul>
<b>投資後のモニタリング</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マネージャーとの綿密なコミュニケーション</li> <li>• 投資ガイドライン遵守状況、運用方針、裏付資産の質等の確認</li> </ul>

※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります